令和4年度改定版

検査案内

医療・保健を確かな技術でサポートします。

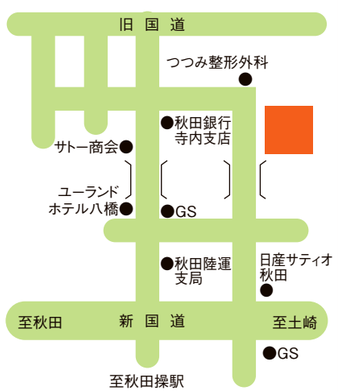
（統一共用基準範囲採用）

公益財団法人 秋田県総合保健事業団

2022.6 作成

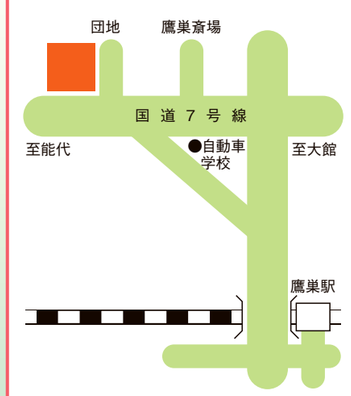
児桜検査センター

〒011-0909 秋田市寺内児桜3丁目1番24号
TEL 018(857)4334・FAX 018(845)9255



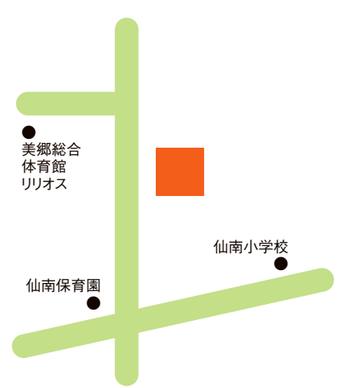
県北健診センター

〒018-3333 北秋田市坊沢字横道沢23番地2の内
TEL 0186(69)7004・FAX 0186(69)7005



県南健診センター（南行政センター内）

〒019-1234 仙北郡美郷町飯詰字北中島35-1
TEL 0187(73)6201・FAX 0187(83)2115



- 児桜検査センター／秋田市寺内児桜3丁目1番24号　TEL 018(857)4334・FAX 018(845)9255
- 県北健診センター／北秋田市坊沢字横道沢23番地2の内　TEL 0186(69)7004・FAX 0186(69)7005
- 県南健診センター／仙北郡美郷町飯詰字北中島35-1　TEL 0187(73)6201・FAX 0187(83)2115

検査案内目次

検査依頼要項	1
各種検査依頼書・報告書	5
索　　引	6
緊急報告値	9
採取容器	10
一般検査（尿検査）	15
一般検査（糞便検査）	16
血液学的検査	17
免疫血清学的検査	18
血液化学検査（生化学的検査Ⅰ）	21
血液化学検査（生化学的検査Ⅱ）	24
血液化学検査（負荷試験等）	25
微生物学的検査（一般細菌検査）	26
微生物学的検査（抗酸菌検査）	27
病理学的検査	28
細胞診検査	29
参考文献一覧	31
臨床検査方法の略語（抄）	37
保存可能期間	38

検査のご指示

★検査依頼書に貴病・医院の施設名を印字してお届け致します。

①患者名、性別、年齢、採取年月日（採取時刻も含む）、検体の種類、指示項目をご記入下さい。

②患者名はカタカナでご記入下さい。

③検査指示項目

＊指示項目欄の□を斜線でご記入下さい。……（記入例　□→◪）

＊指示項目の取り消しは□を×印で訂正して下さい。……（記入例　◪→☒）

④検査依頼書にない検査項目を指示される時は、その他の項目欄に検査項目をご記入下さい。

⑤至急報告を必要とする依頼の場合、依頼書の至急情報及び連絡方法をご記入下さい。

検査依頼書の指示

総合検査依頼書 特定健診検査依頼書	尿検査・糞便検査・血液学的検査・血液化学検査 免疫血清学的検査・肝炎ウイルス関連検査
細菌検査依頼書	一般細菌検査・抗酸菌検査
病理組織検査依頼書	病理組織検査専用
細胞診依頼書	細胞診検査専用

検体ラベル

❶ 総合検査依頼書の右側に添付されているバーコードラベルを採取容器に必ずお貼り下さい。（患者名をご記入下さい）

❷ ⑤血糖・HbA1cラベルは空腹時・日内変動・糖負荷用です。血糖の日内変動・糖負荷は採血した最初の試験管（日内は1回目、糖負荷は前）にお貼り下さい。

❸ ⑧その他検査ラベルは、BNP検査や記入ミス等でお使い下さい。（記入ミスの場合はラベル分類名を明記して下さい）

❹ 未使用ラベルは検査依頼書から切り離さずにそのままお返し下さい。

❺ 検査依頼書はコンピューターで読み込ませますので、汚したり、折り曲げたりしないで下さい。

採取容器

ラベル分類	容　器
① 血液学検査	EDTA-2K
② 血液凝固・線溶系検査	3.2クエン酸Na(黒色キャップ)
③ 血液型輸血関連検査	EDTA-2Na
④ 生化学・免疫血清学検査	分離剤入り採血管
⑤ 血糖・HbA1c	フッ化Na（灰色キャップ）
⑥ 尿検査	スピッツ（黄色キャップ）
⑦ 糞便検査	便　容　器
⑧ その他検査	予　備　用

●マーク記入例

●依頼をする場合…… ⋰ → ◪

●依頼を取り消しする場合… ⋰ → ☒

●読み取れない記入例… ⋰ → ☑

⋰ → ◪

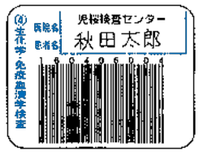
⋰ → ◪

●ラベルの貼り方

●正しいラベルの貼り方

●間違ったラベルの貼り方…バーコードの読み込み不可

●記入例



※医院名は配布時に印刷されています。

★患者名を必ずご記入下さい。

検体の採取及び保存

- 採取量、採取条件は各項目の欄をご参照下さい。
- 採血後の検体は、直射日光をさけ、室温保存（20～28℃）して下さい。血清分離後の検体は冷蔵保存（2～8℃）して下さい。
- 検体採取容器は各項目欄又は専用容器欄（P10～14・18・27）をご参照下さい。

〔A〕冷やしてはいけない検査項目（室温保存）

a）直接クームス（直接抗グロブリン）試験

b）寒冷凝集反応（CHA）

c）血液培養、淋菌・髄膜炎菌を目的とする培養

〔B〕直ちに氷冷しなければならない検査項目

リパーゼ（膵液）又はACTH、レニン等の各種ホルモン

〔注〕各種ホルモンの測定は、測定委託先の検査案内書をご参照下さい。

〔C〕測定値に影響する因子

	溶血	乳び	黄疸	全血放置
上昇	TP K BiL LD AST ALT CK	TG	IP	NH_3 K（冷蔵時） IP LD
低下	UA IP Fe AMY Ht RBC	IP	CRE UA T−CHO LDL−C HDL−C	Na K（高温時） Ca PLT

主な単位記号について

M	：男性（Male）	dL	：deciliter
F	：女性（Female）	mL	：milliliter
		μL	：microliter
g	：gram	mol	：mole
mg	：milligram	mmol	：millimole
μg	：microgram	μmol	：micromole
ng	：nanogram	mEq	：milliequivalent
pg	：picogram	U	：Unit
L	：liter	IU	：international Unit

検体受領場所（貴院指定場所）

検体搬送に要する時間

貴院より(公財)秋田県総合保健事業団(児桜検査センター、県北健診センター、県南健診センター)迄約　　分　　時間

測定委託先

当事業団で未実施の検査（特殊検査）については、下記に測定委託しております。

株式会社　SRL（エスアールエル）

検査結果のご報告

- 後日、担当者が報告書をお届け致します。（但し、病理組織検査等の一部を除く）
- 至急報告を希望される場合は、検査依頼時にご指示下さい。検査結果を電話又はＦＡＸにてご報告致します。（本報告は後程お届け致します。）

再検査と検体の廃棄処理日数

- 当事業団再検査基準に従い再検査を実施致しております。
- 検査成績報告後の残検体（血清）は4週間凍結保存しております。
- 血液像標本は約2ヵ月間保存しております。（但し、再検査の対象検体のみ）
- 病理組織検査の検査済材料は組織診断後、2ヵ月で廃棄致します。
- 細胞診検査の標本はclassⅢa以上については半永久的、又正常標本は5年間保存しております。

検体検査料

- 検体検査料は、実施料と判断料に区分されております。
- 検体検査判断料

1. 尿・糞便検査判断料	34点
2. 遺伝子関連・染色体検査判断料	100点
3. 血液学的検査判断料	125点
4. 生化学的検査（Ⅰ）判断料	144点
5. 生化学的検査（Ⅱ）判断料	144点
6. 免疫学的検査判断料	144点
7. 微生物学的検査判断料	150点
8. 病理学的検査等判断料	130点

注1. 検体検査判断料は該当する検査の種類、回数にかかわらず各々月1回に限り算定できるものとする。

注2. 上記1. にかかわらず、尿中一般物質定性半定量検査の所定点数を算定した場合、当該検査については尿・糞便検査判断料は算定しない。

包括点数

- 血液化学検査

検査項目

総蛋白量	カルシウム	中性脂肪	ChE
アルブミン	無機リン	T−BIL	ALP
尿素窒素	マグネシウム	D−BIL	AMY
クレアチニン	血清鉄	LD（LDH）	LAP
尿酸	総鉄結合能	GGT（γ−GTP）	血糖
ナトリウム	総コレステロール	AST（GOT）	
クロール	LDL−コレステロール	ALT（GPT）	
カリウム	HDL−コレステロール	CK	

〔注〕
総コレステロール、LDL−コレステロール、HDL−コレステロールを同時測定した場合は主たる2項目の算定。

包括点数

5〜7項目	93点
8〜9項目	99点
10項目以上	106点

- 肝炎ウイルス関連検査

検査項目

HBs 抗原精密	HBc 抗体
HBs 抗体精密	HCV 抗体
HBe 抗原	
HBe 抗体	

包括点数

3項目	290点
4項目	360点
5項目以上	425点

- 腫瘍マーカー

検査項目

CEA	AFP	高感度PSA（前立腺特異抗原）
CA19−9	CA125	フリーPSA／トータルPSA比

包括点数

2項目	230点
3項目	290点
4項目以上	396点

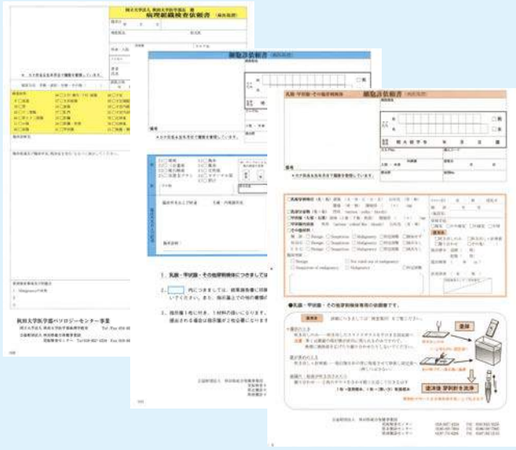
各種検査依頼書・報告書

総合検査依頼書

特定健診検査依頼書

細菌検査依頼書

病理組織検査依頼書・細胞診依頼書



各種検査報告書

《五十音順》

	項目名	ページ	保険点数
ア	アミラーゼ(AMY)	22	11
	アミラーゼクレアチニンクリアランス(ACCR)	25	44
	アルカリホスファターゼ(ALP)	22	11
	アルブミン(ALB)	21	11
	アンモニア(NH_3)	22	50
	アデノウイルス抗原	16	60
イ	インスリン	24	103
カ	活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)	17	29
	カリウム(K)	21	11
	カルシウム(Ca)	21	11
	カルバマゼピン	25	
	寒冷凝集反応(CHA)	20	11
	間接クームス(間接抗グロブリン)試験	19	47
キ	寄生虫卵検査(塗抹法)(ぎょう虫卵)	16	20
ク	グリコヘモグロビン(HbA1c)	22	49
	グルコース(血糖)	22	11
	クレアチニン(CRE)	21	11
	クレアチニンクリアランス(CCR)	25	22
	クレアチンキナーゼ(CK)	22	11
	クロストリジオイデス・ディフィシル	16	80
	クロール(Cℓ)	21	11
ケ	血液型(ABO)	19	24
	血液型(RhD)	19	24
	血液像(末梢血液像)自動機械法	17	15
	血液像(末梢血液像)鏡検法	17	25
	血色素量(Hb・末梢血液一般検査)	17	21
	血小板数(PLT・末梢血液一般検査)	17	21
	血清鉄(Fe)	21	11
	血清補体価(CH50)	18	38
	血糖(GLU)	22	11
	結核菌群核酸検出	27	410
	血中薬物	25	
	結核菌特異的インターフェロンγ産生能(QFT)	18	594
コ	抗ストレプトリジンーO価(ASO)	19	15
	コリンエステラーゼ(ChE)	22	11
	高感度PSA(前立腺特異抗原)	24	124
サ	細胞診検査(婦人科)	29	150
	細胞診検査(喀痰・その他)	29	190
シ	ジゴキシン	25	
セ	赤血球数(RBC・末梢血液一般検査)	17	21
	前立腺特異抗原(PSA)	24	124
ソ	総コレステロール(T−CH)	22	17
	総蛋白量(TP)	21	11
	総鉄結合能(TIBC)	21	
	総ビリルビン(T−BIL)	22	11
タ	蛋白定量(尿)	15	7
チ	中性脂肪(TG)	22	11
	沈渣(染色法)	15	36
	直接クームス(直接抗グロブリン)試験	19	34
テ	テオフィリン	25	
ト	糖定量(尿)	15	9
	トリグリセライド(TG)	22	11
	塗抹(一般細菌)	26	64
	塗抹(抗酸菌、蛍光法)	27	85
ナ	ナトリウム(Na)	21	11
ニ	乳酸脱水素酵素(LD・LDH)	22	11
	尿酸(UA)	21	11
	尿酸クリアランス	25	22
	尿アミラーゼ	22	11
	尿クレアチニン	21	11
	尿素窒素(BUN)	21	11
	尿中マイクロアルブミン	15	99
	妊娠反応(HCG定性)	15	55
ノ	ノロウイルス遺伝子検査	27	
ハ	白血球数(WBC・末梢血液一般検査)	17	21
	培養(一般細菌)	26	
	培養(抗酸菌)	27	209
	バルプロ酸	25	
	梅毒定性(RPR法)	19	15
	梅毒定量(RPR法)	19	34
	梅毒定性(TPLA)	19	32
	梅毒定量(TPLA)	19	53
ヒ	ヒト脳性Na利尿ペプチド(BNP)	24	133
	病理組織顕微鏡検査	28	860
フ	フェリチン(FER)	22	105

	項目名	ページ	保険点数
フ	フェニトイン	25	
	フェノバルビタール	25	
	フィブリノーゲン定量(Fbg)	17	23
	不飽和鉄結合能(UIBC)	21	11
	フリーPSA/トータルPSA比	24	150
	プロトロンビン時間(PT)	17	18
	糞便中ヒトヘモグロビン	16	37
	糞便中ヒトヘモグロビン精密測定	16	41
ヘ	ヘマトクリット値(Ht・末梢血液一般検査)	17	21
	ヘモグロビン(末梢血液一般検査)	17	21
	ヘモグロビンA1c(HbA1c)	22	49
	ヘリコバクター.ピロリIgG抗体	19	80
マ	マイコプラズマ抗体価	19	32
	マグネシウム(Mg)	21	11
	MAC(マイコバクテリウム アビウム・イントラセルラー)核酸検出	27	421
ム	無機リン(IP)	21	17
モ	網赤血球数(Ret)	17	12
リ	リウマトイド因子(RF)	20	30
	リン(無機リン・IP)	21	17
	リチウム(Li)	25	
レ	レチクロ(網赤血球数)	17	12
ロ	ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)	22	11
	ロタウイルス抗原	16	65

《アルファベット順》

	項目名	ページ	保険点数
A	ABO血液型	19	24
	AFP(α－フェトプロテイン)	24	101
	ALP(アルカリホスファターゼ)	22	11
	ALT(GPT)	22	17
	AMY(アミラーゼ)	22	11
	ASO価(抗ストレプトリジンO)	19	15
	AST(GOT)	22	17
	APTT(活性化部分トロンボプラスチン時間)	17	29
B	BUN(尿素窒素)	21	11
	BNP(ヒト脳性Na利尿ペプチド)	24	133
C	C3	18	70
	C4	18	70
	CA19－9	24	124
	CA125	24	140
	Ca(カルシウム)	21	11
	CEA	24	99
	CK(クレアチンキナーゼ)	22	11
	Cℓ(クロール)	21	11
	CRP(定性)	18	16
	CRP(定量)	18	16
	CHA(寒冷凝集反応)	20	11
	ChE(コリンエステラーゼ)	22	11
	CH50(血清補体価)	18	38
	CRE(クレアチニン)	21	11
D	D－BIL(抱合型ビリルビン)	22	11
F	Fbg(フィブリノーゲン)	17	23
	FT_4	24	124
	FT_3	24	124
	F/T比(フリーPSA/トータルPSA比)	24	150
G	GOT(AST)	22	17
	GPT(ALT)	22	17
	GGT(γ－GTP)	22	11
H	Hb(血色素量)	17	21
	HbA1c(グリコヘモグロビン)	22	49
	HBc抗体	20	133
	HBe抗原	20	101
	HBe抗体	20	101
	HBs抗原(定性)	20	29
	HBs抗原(精密)	20	88
	HBs抗体(定性)	20	32
	HBs抗体(精密)	20	88
H	HCV抗体	20	105
	Ht(ヘマトクリット値)	17	21
	HDL－コレステロール(HDL－CH)	22	17
	H.ピロリIgG抗体	19	80
I	IgG	19	38
	IgA	19	38
	IgM	19	38
	ID－BIL(非抱合型ビリルビン)	22	
	IP(無機リン)	21	17
K	K(カリウム)	21	11
L	LAP(ロイシンアミノペプチダーゼ)	22	11
	LD(乳酸脱水素酵素)	22	11
	LDL－コレステロール(LDL－CH)	22	18
M	MCH(平均赤血球血色素量)	17	
	MCHC(平均赤血球血色素濃度)	17	
	MCV(平均赤血球容積)	17	
	Mg(マグネシウム)	21	11
	MAC(マイコバクテリウム アビウム・イントラセルラー)核酸検出	27	421
N	Na(ナトリウム)	21	11
	NAG	15	41
O	OGTT(糖負荷試験)	25	200
P	P(無機リン)	21	17
	PLT(血小板数)	17	21
	PT(プロトロンビン時間)	17	18
	PSA(前立腺特異抗原)	24	124
Q	QFT(結核菌特異的インターフェロンγ産生能)	18	594
R	RF(リウマトイド因子)	20	30
	RBC(赤血球数)	17	21
	RhD血液型	19	24
	RPR法(定性)	19	15
	RPR法(定量)	19	34
T	TG(中性脂肪)	22	11
	TIBC(総鉄結合能)	21	
	TP(総蛋白量)	21	11
	total hCG定量	24	134
	T－BIL(総ビリルビン)	22	11
	T－CH(総コレステロール)	22	17
T	TPLA(定性)	19	32
	TPLA(定量)	19	53
	TSH	24	101
U	UA(尿酸)	21	11
	UIBC(不飽和鉄結合能)	21	11
	UN(尿素窒素)	21	11
	U－AMY(尿アミラーゼ)	22	11
V	VMA反応(バニリルマンデル酸)	15	9
W	WBC(白血球数)	17	21

《ギリシャ文字・数字》

	ページ	保険点数
$β_2$マイクログロブリン	18	101
α－フェトプロテイン(AFP)	24	101
γ－GTP(GGT)	22	11

●下記の項目について、緊急報告値が認められた場合直ちに連絡致します。

	検査項目	緊急報告値	基準範囲
血液学的検査	血色素量(Hb)	5.0以下・20.0以上 (g/dL)	M 13.7～16.8 F 11.6～14.8
	ヘマトクリット値(Ht)	15.0以下・55.0以上 (%)	M 40.7～50.1 F 35.1～44.4
	白血球数(WBC)	10以下・250以上 ($\times 10^2$/μL)	33～86
	血小板数(PLT)	3.0以下・100.0以上 ($\times 10^4$/μL)	15.8～34.8
	プロトロンビン時間(PT)	INR 4.00以上	
生化学的検査	総蛋白量(TP)	4.0以下・9.0以上 (g/dL)	6.6～8.1
	尿素窒素(BUN)	80.0以上 (mg/dL)	8.0～20.0
	クレアチニン(CRE)	7.5以上 (mg/dL)	M 0.65～1.07 F 0.46～0.79
	T－BIL 新生児	18.0以上 (mg/dL)	
	血糖(空腹時)	40以下・700以上 (mg/dL)	70～109
	血糖 新生児	30以下・300以上 (mg/dL)	
	ナトリウム(Na)	120以下・160以上 (mmol/L)	138～145
	カリウム(K)	2.5以下・6.5以上 (mmol/L)	3.6～4.8
	カリウム(K) 新生児	8.0以上 (mmol/L)	
	カルシウム(Ca)	6.0以下・14.0以上 (mg/dL)	8.8～10.1
	無機リン(IP)	1.0以下・8.0以上 (mg/dL)	2.7～4.6
血中薬物検査	リチウム	2.0以上 (mmol/L)	0.50～1.50
	ジゴキシン	2.5以上 (ng/mL)	0.9～2.0
	テオフィリン	25.00以上 (μg/mL)	10.00～20.00
	フェニトイン	30.0以上 (μg/mL)	10.0～20.0
	フェノバルビタール	60.0以上 (μg/mL)	10.0～40.0
	カルバマゼピン	12.0以上 (μg/mL)	4.0～12.0
	バルプロ酸	150.0以上 (μg/mL)	50.0～100.0

尚、この他下記の場合は直ちにご報告致します。

1. 血液及び髄液から菌が検出された場合。
2. 一～三類感染症の菌が検出された場合。

専用容器	内容（貯蔵方法）	検査項目	採取量	備考
Ⓐ Ⓑ （真　空）	分離剤 （室温）	生化学検査 免疫血清検査 甲状腺機能検査 腫瘍関連検査 肝機能検査 腎機能検査 その他		
Ⓒ	（室温）	新生児用採血管	1mL	
Ⓓ （真　空）	フッ化ナトリウム EDTA-2Na （室温）	血糖 Hb A1c	2mL	採血後軽く転倒混和して下さい。
Ⓩ	除タンパク液 4.0mL （冷暗所 冷蔵庫など）	血中アンモニア (NH_3)	1mL	専用容器に全血1mL採取し、直ちに転倒混和して下さい。

専用容器	内容（貯蔵方法）	検査項目	採取量	備考
Ⓔ （真空）	EDTA-2K （室温）	末梢血液一般検査 網赤血球数 血液像	2mL	採血後軽く転倒混和して下さい。 溶血・凝固 } 測定不可
Ⓕ （真空）	3.2% クエン酸 ナトリウム 0.2mL （室温）	プロトロンビン時間 活性化部分トロンボプラスチン時間 フィブリノーゲン定量	1.8mL	クエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し軽く転倒混和して下さい。
Ⓗ （真空）	EDTA-2Na （室温）	ＢＮＰ （ヒト脳性Na利尿ペプチド）	2mL	採血後軽く転倒混和して冷蔵保存（4℃）して下さい。
Ⓘ （真空）	EDTA-2Na （室温）	血液型検査 直接クームス試験 （直接抗グロブリン試験） 間接クームス試験 （間接抗グロブリン試験） 輸血検査	5mL	採血後軽く転倒混和して下さい。

専用容器	内容（貯蔵方法）	検査項目	採取量	備考
Ⓙ 滅菌ポリスピッツ	（室温）	一般尿検査	10mL	
Ⓛ 糞便容器	（室温）	糞便検査	拇指頭大	
Ⓜ	（室温）	ぎょう虫卵検査		
Ⓝ 採便容器	（室温）	糞便中ヒトヘモグロビン		袋内の採便方法を参考にして採取して下さい。

専用容器	内容（貯蔵方法）	検査項目	採取量	備考
Ⓞ 滅菌ポリスピッツ	（室温）	細菌検査	適量	冷蔵保存 ※淋菌・髄膜炎菌を目的とする検体は室温又は37℃で保存
Ⓟ スワブ 咽頭用 耳鼻科用	（室温）	細菌検査	適量	
Ⓠ 採便管	（室温）	細菌検査 （糞便用）	小指頭大	室温保存
Ⓡ シグナル	（室温）	血液培養検査 （好気性培養 嫌気性培養）	1～10mL	室温又は37℃で保存 （髄液・胸水・腹水 心膜液・関節液も可）
Ⓢ 滅菌喀痰容器	（室温）	細菌検査 抗酸菌検査 細胞診検査	適量	喀痰採取後は冷蔵保存

専用容器	内容（貯蔵方法）	検査項目	採取量	備考
Ⓣ	（室温）	病理組織検査		組織採取後、直ちに10～20％ホルマリン液に入れ固定して下さい。
Ⓤ プレパラート（白）	（室温）	細胞診検査 （婦人科 塗抹用）		塗抹後直ちに湿固定して下さい。 （固定時間30分以上）
Ⓥ プレパラート（青）	（室温）	細胞診検査 （穿刺吸引細胞診 塗抹用）		塗抹後直ちに湿固定して下さい。 乾燥標本を作製する場合は急速冷風乾燥して下さい。P30参照
Ⓦ	（室温）	細胞診検査 （穿刺針洗浄液）		針をつけたままシリンジを上下させ、針内を洗浄し提出して下さい。
Ⓧ	（室温）	細胞診検査 （喀痰集細胞法）	3日蓄痰	3日分蓄痰し、シールをはがして提出して下さい。
Ⓨ 尿細胞診容器 （Ⓢ 滅菌喀痰容器でも可）	（室温）	細胞診検査 （体腔液その他、液状検体も可）	40mL	尿量が少量（10mL以下）の場合は、従来通り、Ⓙのポリスピッツを使用して下さい。 採取後は冷蔵保存

検査項目		採取量(mL)	容器	検査方法	基準範囲(単位)	保険点数	所要日数(日)	備考
外観（色調・混濁）			J			※	1	
比重			J	試験紙法	1.003～1.032	※	1	
P H			J	試験紙法	4.5～8.0	※	1	
糖	定性		J	試験紙法	（－）	※	1	
	定量		J	ヘキソキナーゼ法		9	1	
蛋白	定性		J	試験紙法	（－）	※	1	
	定量		J	ピロガロールレッド法		7	1	
ケトン体			J	試験紙法	（－）	※	1	
ウロビリノーゲン		10	J	試験紙法	（±）	※	1	
ビリルビン			J	試験紙法	（－）	※	1	
潜血反応			J	試験紙法	（－）	※	1	
沈渣			J	染色法		36	1	
VMA反応			J	佐藤らの方法	（－）	9	1	
NAG			J	MPT基質法	0.3～11.5 （IU/L）	41	1	
尿中マイクロアルブミン			J	免疫比濁法	30.0未満 （mg/g･Cr）	99	1	（補正値）
妊娠反応			J	イムノクロマト法		55	1	

● 同一検体で沈渣・細菌塗抹検査を併せて行った場合は64点となります。
● ※印の項目は医療機関内で検査を行った場合のみ算定できます。
● 判断料は尿・糞便検査判断料34点となります。妊娠反応は生化学的検査（Ⅱ）判断料144点となります。

検査項目		採取量(mL)	容器	検査方法	基準範囲(単位)	保険点数	所要日数(日)	備考
糞便中ヒトヘモグロビン	定性	パンフレット参照	N(L)	ラテックス凝集法	（－）	37	1	採便後は冷蔵保存
	定量		N(L)	ラテックス凝集法	150以下 （ng/mL）	41	1	
（寄生虫卵）								
肉眼所見		拇指頭大	L				1	
塗抹検査			L	セロハン厚層塗抹法	（－）	20	1	
ぎょう虫卵			M	セロテープ法	（－）	20	1	専用セロファンに採取
ロタウイルス抗原		拇指頭大	L	イムノクロマト法	（－）	65	1	
アデノウイルス抗原			L	イムノクロマト法	（－）	60	1	
クロストリジオイデス･ディフィシル			L	イムノクロマト法	（－）	80	1	

● ロタウイルス抗原とアデノウイルス抗原の同時測定時は、主たるものの算定となります。
● 判断料はロタウイルス抗原とアデノウイルス抗原・クロストリジオイデス・ディフィシルは免疫化学的検査判断料144点、それ以外は尿・糞便検査判断料の34点となります。

検査項目	採取量(mL)	容器	検査方法	基準範囲(単位)	保険点数	所要日数(日)	備考
血液形態機能検査							
血色素量（Hb）	2	E	SLSヘモグロビン法	M 13.7~16.8 F 11.6~14.8 (g/dL)	※21	1	採血後軽く転倒混和して下さい。 検体が溶血または凝固している場合は、測定できません。
赤血球数(RBC)	2	E	電気抵抗検出法	M 435~555 F 386~492 (×10⁴/μL)	※21	1	
ヘマトクリット値(Ｈｔ)	2	E	パルス波高値検出法	M 40.7~50.1 F 35.1~44.4 (%)	※21	1	
網赤血球数(Ret)	2	E	フローサイトメトリー法	2~27 (‰)	12	1	
血小板数（PLT）	2	E	電気抵抗検出法	15.8~34.8 (×10⁴/μL)	※21	1	
白血球数（WBC）	2	E	電気抵抗検出法	33~86 (×10²/μL)	※21	1	
MCV (平均赤血球容積)				83.6～98.2 (fL)			
MCH (平均赤血球血色素量)				27.5～33.2 (pg)			
MCHC (平均赤血球血色素濃度)				31.7～35.3 (%)			
血液像 (末梢血液像)	2	E	自動機械法 (フローサイトメトリー法及びRF/DCインピーダンス法) 鏡検法 (メイ･ギムザ染色) 塗抹標本は室温保存	Neut 27.0~72.0 (%) (Stab 0.0~19.0 (%) Seg 28.0~68.0 (%))	15	1	
				Eosino 0.0~8.0 (%)	25		
				Baso 0.0 ~2.0 (%)			
				Mono 0.0~10.0 (%)			
				Lympho 18.0~59.0 (%)			
鼻汁中好酸球検査			鏡検法 (メイ･ギムザ染色)	(－)	15	1	
凝固検査							
プロトロンビン時間（PT）	1.8	F	Quick一段法	70～130 (%)	18	1	専用容器に規定量採取して下さい。
活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)	1.8	F	エラジン酸活性化法	25～35 (秒) Stより±5秒以内	29	1	
フィブリノーゲン定量(Fbg)	1.8	F	トロンビン法	200～400 (mg/dL)	23	1	

● 判断料は血液学的検査判断料の125点となります。
● ※項目（末梢血液一般検査）は一括21点となります。

検査項目	採取量(mL)	容器	検査方法	基準範囲(単位)	保険点数	所要日数(日)	備考
血漿蛋白免疫学的検査							
ＣＲＰ（定量）	2	A·B	ラテックス比濁法	0.00～0.14(mg/dL)	16	1	
ＣＲＰ（定性）	2	A·B	ラテックス比濁法	(－)	16	1	
ＣＨ50(血清補体価)	2	A·B	Ｍａｙｅｒ変法	25.0～48.0 (U/mL)	38	1	
Ｃ３	2	A·B	免疫比濁法	73～138 (mg/dL)	70	1	
Ｃ４	2	A·B	免疫比濁法	11～31 (mg/dL)	70	1	
β_2－マイクログロブリン	2 2	A·B (尿)J	ラテックス比濁法	2.0以下 (mg/L) (μg/L)	101	1	
結核菌特異的インターフェロンγ産生能(QFT)	5 (2本)	X	ELISA法		594	3～15	要予約検査

● 判断料は免疫学的検査判断料の144点となります。

● 予約検査となっておりますので事前に連絡をお願いいたします。
● 採血後はすみやかに冷蔵保存（2～8℃）して下さい。

検査項目		採取量(mL)	容器	検査方法	基準範囲(単位)	保険点数	所要日数(日)	備考
血液型輸血関連検査								
ＡＢＯ血液型		5	Ⅰ	カラム凝集法		24	1	
ＲｈＤ血液型		5	Ⅰ	カラム凝集法		24	1	
直接クームス試験(直接抗グロブリン試験)		5	Ⅰ	試験管法	陰性	34	1	採血後は必ず室温保存して下さい。
間接クームス試験(間接抗グロブリン試験)		5	Ⅰ	カラム凝集法	陰性	47	1	
● ABO血液型：生後1歳未満の乳幼児の場合は、抗A・抗B抗体の産生が不十分なため、表試験のみのご報告となります。成長後の再検査をお勧め致します。								
血漿蛋白免疫学検査		採血後の検体は、直射日光をさけ、室温保存（20～28℃）して下さい。血清分離後の検体は、冷蔵保存（2～8℃）して下さい。						
ＩｇＧ		3	A・B	免疫比濁法	861~1747(mg/dL)	38	1	
ＩｇＡ		3	A・B	免疫比濁法	93～393 (mg/dL)	38	1	
ＩｇＭ		3	A・B	免疫比濁法	M33～183 F50～269 (mg/dL)	38	1	
梅毒定性・定量検査								
梅毒定性	ＲＰＲ法	4	A・B	ラテックス凝集法	(－)	15	1～2	
	ＴＰＬＡ	4	A・B	ラテックス凝集法	(－)	32	1～2	
梅毒定量	ＲＰＲ法	4	A・B	ラテックス凝集法	1未満 (R.U.)	34	1～2	
	ＴＰＬＡ	4	A・B	ラテックス凝集法	10未満 (T.U.)	53	1～2	
感染症血清反応検査								
ＡＳＯ価		2	A・B	ラテックス凝集法	200未満 (IU/mL)	15	1	
マイコプラズマ抗体価		2	A・B	粒子凝集反応(PA法)	40未満 (倍)	32	2～3	
H.ピロリＩｇＧ抗体		2	A・B	ラテックス凝集法	5.0未満 (U/mL)	80	1	

● 判断料は免疫学的検査判断料の144点となります。

● 採血後の検体は、直射日光をさけ、室温保存（20～28℃）して下さい。血清分離後の検体は冷蔵保存（2～8℃）して下さい。

検査項目	採取量(mL)	容器	検査方法	基準範囲(単位)	保険点数	所要日数(日)	備考
肝炎ウイルス関連検査							
ＨＢｓ抗原（定性）	2	A·B	簡易法	(－)	29	1～2	
ＨＢｓ抗体（定性）	2	A·B	簡易法	(－)	32	1～2	
※ＨＢｓ抗原精密	2	A·B	CLIA	0.05未満(－) (IU/mL)	88	1～2	
※ＨＢｓ抗体精密	2	A·B	CLIA	10.0未満(－) (mIU/mL)	88	1～2	
※ＨＢｅ抗原	2	A·B	CLIA	1.0未満(－) (S/CO)	101	1～2	
※ＨＢｅ抗体	2	A·B	CLIA	50未満(－) (%)	101	1～2	Inhibition%
※ＨＢｃ抗体	2	A·B	CLIA	1.0未満(－) (S/CO)	133	1～2	
※ＨＣＶ抗体	2	A·B	CLIA	1.00未満(－) (S/CO)	105	1～2	
● 測定法の限界上、陰性判定であっても陽性を完全に否定するものではありません。B型肝炎ウイルス（ＨＢＶ）感染の診断は、本検査の結果のみで行わず、ＨＢｃ抗体測定等、他の検査結果及び臨床経過を考慮して総合的にご判断下さい。 ● 判断料は免疫学的検査判断料の１４４点となります。 ● ※印は包括対象項目です。 肝炎ウイルス包括点数 3項目 290点 / 4項目 360点 / 5項目以上 425点							
自己抗体検査							
RF(リウマトイド因子)	2	A·B	ラテックス比濁法	15未満 (IU/mL)	30	1	
寒冷凝集反応(CHA)	2	A·B	赤血球凝集反応	128未満 (倍)	11	2～3	採血後は必ず室温保存して下さい。

● 判断料は免疫学的検査判断料の144点となります。

● 採血後の検体は、直射日光をさけ、室温保存（20～28℃）して下さい。血清分離後の検体は冷蔵保存（２～８℃）して下さい。

検査項目	採取量(mL)	容器	検査方法	基準範囲(単位)	保険点数	所要日数(日)	備考
※総蛋白量(TP)	2	A·B	ビュウレット法	6.6～8.1 (g/dL)	11	1	
※アルブミン	2	A·B	BCP改良法	4.1～5.1 (g/dL)	11	1	
※尿素窒素(BUN)	2	A·B	ウレアーゼGLDH-UV法	8.0～20.0 (mg/dL)	11	1	
※クレアチニン(CRE)	2	A·B	酵素法	M0.65～1.07 F0.46～0.79 (mg/dL)	11	1	
	2	(尿)J		0.5～1.5 (g/day)	11	1	
※尿酸(UA)	2	A·B	ウリカーゼPOD法	M3.6～7.0 F2.3～7.0 (mg/dL)	11	1	
※ナトリウム(Na)	2	A·B	イオン電極法	138～145 (mmol/L)	一括 11	1	採血後は必ず室温保存して下さい。
※クロール(Cℓ)	2	A·B	イオン電極法	101～108 (mmol/L)		1	※（依頼の中に電解質があるときは室温保存）
※カリウム(K)	2	A·B	イオン電極法	3.6～4.8 (mmol/L)	11	1	
※カルシウム(Ca)	2	A·B	アルセナゾⅢ法	8.8～10.1 (mg/dL)	11	1	
※無機リン(IP)	2	A·B	酵素法	2.7～4.6 (mg/dL)	17	1	
※マグネシウム(Mg)	2	A·B	酵素法	1.5～2.6 (mg/dL)	11	1	
※血清鉄(Fe)	2	A·B	Nitroso-PSAP法	40～188 (μg/dL)	11	1	
不飽和鉄結合能(UIBC)	2	A·B	Nitroso-PSAP法	150～336 (μg/dL)	11	1	
※総鉄結合能(TIBC)	2	A·B	Nitroso-PSAP法(計算法)	251～437 (μg/dL)		1	

● 判断料は生化学的検査(Ⅰ)判断料の144点となります。
● ※印は包括項目です。

生化学的検査（Ⅰ）包括点数		
5～7項目	93点	（生化学的検査(Ⅰ)の※印のついた11点、17点、18点の項目について、5項目以上は包括点数となります。）
8～9項目	99点	
10項目以上	106点	

● 採血後の検体は、直射日光をさけ、室温保存（20～28℃）して下さい。血清分離後の検体は冷蔵保存（２～８℃）して下さい。

検査項目	採取量(mL)	容器	検査方法	基準範囲(単位)	保険点数	所要日数(日)	備考
※総コレステロール(T-CH)	2	A·B	COD-POD(酵素法)	128～219 (mg/dL)	17	1	
※LDL-コレステロール(LDL-CH)	2	A·B	直接定量法(酵素法)	60～139 (mg/dL)	18	1	
※HDL-コレステロール(HDL-CH)	2	A·B	直接定量法(酵素法)	40～96 (mg/dL)	17	1	
※中性脂肪(TG)	2	A·B	GKGPO グリセロール消去法(酵素法)	30～149 (mg/dL)	11	1	
※総ビリルビン(T-BIL)	2	A·B	バナジン酸酸化法	0.4～1.5 (mg/dL)	11	1	新生児は◎の容器に採取してください
※抱合型(D-BIL)	2	A·B	バナジン酸酸化法	0～0.4 (mg/dL)	11	1	
非抱合型(ID-BIL)	2	A·B	バナジン酸酸化法(計算法)	0.1～0.8 (mg/dL)		1	
※ＬＤ(LDH)	2	A·B	IFCC法	124～222 (U/L)	11	1	
※ＧＧＴ(γ-GTP)	2	A·B	JSCC法	M13～64 F9～32 (U/L)	11	1	
※ＡＳＴ(GOT)	2	A·B	JSCC法	13～30 (U/L)	17	1	
※ＡＬＴ(GPT)	2	A·B	JSCC法	M10～42 F7～23 (U/L)	17	1	
※ＣＫ	2	A·B	JSCC法	M59～248 F41～153 (U/L)	11	1	
※ＣｈＥ	2	A·B	JSCC法	M240～486 F201～421 (U/L)	11	1	
※ＡＬＰ	2	A·B	IFCC法	38～113 (U/L)	11	1	
※AMY	2	A·B	JSCC法	44～132 (U/L)	11	1	
	2	J(尿)		37～798 (U/L)	11	1	
※ＬＡＰ	2	A·B	L-ロイシル・P-NA法	34～63 (U/L)	11	1	
フェリチン	2	A·B	ラテックス凝集法	M21.8～274.7 F 4.6～204.0 (ng/mL)	105	1	
血中アンモニア(NH_3)	1	Z	奥田・藤田変法	30～86 (μg/dL)	50	1	◎専用容器(除蛋白液4.0mL)に血液1mLを採取して下さい。専用容器は当方で準備しております。
HbA1c	2	D	酵素法	4.6～6.2 (%)	49	1	
※血糖	2	D	ヘキソキナーゼ法	70～109 (mg/dL)	11	1	

● 判断料は生化学的検査(Ⅰ)判断料の144点となります。
● ※印は包括項目です。
● JSCC法：JSCC（日本臨床化学会）標準化対応試薬を使用。
● IFCC法：IFCC（国際臨床化学連合）基準測定操作法と同一の測定法。
● HbA1cは血液学検査判断料となります。
● T-CH、 HDL-C、 LDL-Cを同時測定した場合は主たる2項目の算定となります。

○統一共用基準範囲の採用について

平成29年4月より、秋田県内の主要医療施設において、「日本臨床検査標準協議会（JCCLS）共用基準範囲」の採用により、下記40項目で統一化されております。

	項目	性別	基準範囲	単位	備考
1	WBC		33～86	$\times10^2$/μL	
2	RBC	M	435～555	$\times10^4$/μL	
		F	386～492		
3	Hb	M	13.7～16.8	g/dL	
		F	11.6～14.8		
4	Ht	M	40.7～50.1	%	
		F	35.1～44.4		
5	MCV		83.6～98.2	fL	
6	MCH		27.5～33.2	pg	
7	MCHC		31.7～35.3	%	
8	PLT		15.8～34.8	$\times10^4$/μL	
9	TP		6.6～8.1	g/dL	
10	ALB		4.1～5.1	g/dL	
11	BUN		8.0～20.0	mg/dL	
12	CRE	M	0.65～1.07	mg/dL	
		F	0.46～0.79		
13	UA	M	3.6～7.0	mg/dL	臨床判断値
		F	2.3～7.0		
14	Na		138～145	mmol/L	
15	K		3.6～4.8	mmol/L	
16	Cl		101～108	mmol/L	
17	Ca		8.8～10.1	mg/dL	
18	IP		2.7～4.6	mg/dL	
19	GLU		70～109	mg/dL	臨床判断値
20	TG		30～149	mg/dL	臨床判断値

	項目	性別	基準範囲	単位	備考
21	T-CH		128～219	mg/dL	臨床判断値
22	HDL-C		40～96	mg/dL	臨床判断値
23	LDL-C		60～139	mg/dL	臨床判断値
24	T-Bil		0.4～1.5	mg/dL	
25	AST		13～30	U/L	
26	ALT	M	10～42	U/L	
		F	7～23		
27	LD		124～222	U/L	
28	ALP		38～113	U/L	
29	γGT	M	13～64	U/L	
		F	9～32		
30	ChE	M	240～486	U/L	
		F	201～421		
31	AMY		44～132	U/L	
32	CK	M	59～248	U/L	
		F	41～153		
33	CRP		0.00～0.14	mg/dL	
34	Fe		40～188	μg/dL	
35	IgG		861～1747	mg/dL	
36	IgA		93～393	mg/dL	
37	IgM	M	33～183	mg/dL	
		F	50～269		
38	C3		73～138	mg/dL	
39	C4		11～31	mg/dL	
40	HbA1c		4.6～6.2	%(NGSP)	臨床判断値

● 採血後の検体は、直射日光をさけ、室温保存（20～28℃）して下さい。血清分離後の検体は冷蔵保存（2～8℃）して下さい。

検査項目	採取量(mL)	容器	検査方法	基準範囲(単位)	保険点数	所要日数(日)	備考
BNP(ヒト脳性Na利尿ペプチド)	2	H	CLIA	18.4以下（pg/mL）	133	1～2	専用容器での採血となります。
total-hCG定量	2	A·B	CLIA	（mIU/mL）	134	1～2	
	2	(尿)J			134	1～2	

（甲状腺機能検査）

検査項目	採取量(mL)	容器	検査方法	基準範囲(単位)	保険点数	所要日数(日)	備考
TSH	2	A·B	CLIA	0.350～4.940（μIU/mL）	101	1～2	
Free T_4（FT_4）	2	A·B	CLIA	0.70～1.48（ng/dL）	124	1～2	
Free T_3（FT_3）	2	A·B	CLIA	1.71～3.71（pg/mL）	124	1～2	

（糖尿病関連検査）

検査項目	採取量(mL)	容器	検査方法	基準範囲(単位)	保険点数	所要日数(日)	備考
インスリン(IRI)	2	A·B	CLIA	（μU/mL）	103	1～2	

（腫瘍関連検査）

検査項目	採取量(mL)	容器	検査方法	基準範囲(単位)	保険点数	所要日数(日)	備考
CEA	2	A·B	CLIA	5.0未満（ng/mL）	99	1～2	
AFP(α-フェトプロテイン)	2	A·B	CLIA	12.5未満（ng/mL）	101	1～2	
CA19-9	2	A·B	CLIA	37.0未満（U/mL）	124	1～2	
高感度PSA(前立腺特異抗原)	2	A·B	CLIA	4.0未満（ng/mL）	124	1～2	測定レンジ 0.008～(ng/mL)
フリーPSA/トータルPSA比	2	A·B	CLIA	24.0以上（%）	150	1～2	
CA125	2	A·B	CLIA	35.0以下（U/mL）	140	1～2	

腫瘍マーカー包括点数　2項目　230点
3項目　290点
4項目以上　396点

● 判断料は生化学的検査（Ⅱ）判断料の144点となります。

●採血後の検体は、直射日光をさけ、室温保存（20～28℃）して下さい。血清分離後の検体は冷蔵保存（２～８℃）して下さい。

検査項目	採取量(mL)	容器	検査方法	基準範囲(単位)	保険点数	所要日数(日)	備考
糖負荷試験(OGTT)	2	D	ヘキソキナーゼ法		200	1	
血糖日内変動	2	D	ヘキソキナーゼ法		11	1	
クレアチニンクリアランス(CCR)	3 尿2	A·B J	酵素法	70～130（mL/min）	22	1	年齢·身長·体重·採尿時間·尿量を必ず明記して下さい。
24時間 クレアチニンクリアランス(24-CCR)	3 尿2	A·B J	酵素法	70～130（mL/min）	22	1	
尿酸クリアランス	3 尿2	A·B J	酵素法		22	1	
アミラーゼ クレアチニンクリアランス比(ACCR)	3 尿2	A·B J	JSCC法・酵素法	1.4～4.0 （%）	44	1	

● 上記の項目は判断料がありません。
● 耐糖能精密検査（糖負荷試験及び負荷前後のインスリン測定を行った場合）は900点となります。
●（注）糖負荷試験（常用負荷試験、耐糖負荷精密測定）の注射、採血及び検体測定の費用は、採血回数、測定回数にかかわらず所定点数に含まれます。

血中薬物検査（ＴＤＭ）

検査項目	採取量(mL)	容器	検査方法	基準範囲(単位)（有効治療濃度）	保険点数	所要日数(日)	備考
ジゴキシン	2	A·B	EMIT	0.9～2.0 （ng/mL）		1	
テオフィリン	2	A·B	EMIT	10.00～20.00（μg/mL）		1	
フェニトイン	2	A·B	EMIT	10.0～20.0 （μg/mL）		1	
フェノバルビタール	2	A·B	EMIT	10.0～40.0 （μg/mL）		1	
カルバマゼピン	2	A·B	EMIT	4.0～12.0 （μg/mL）		1	
バルプロ酸	2	A·B	EMIT	50.0～100.0（μg/mL）		1	
リチウム	2	A·B	比色法	0.50～1.50（mmol/L）		1	

保険適用特定薬剤治療管理料

強心配糖体	470点	初回月は280点加算。4ケ月以降100分の50を算定。ジキタリス製剤の急速飽和、1回に限り740点。
気管支拡張剤	470点	初回月は280点加算。4ケ月以降100分の50を算定。
抗てんかん薬	470点	初回月は280点加算。2剤以上併用の場合当該管理月あたり2回に限り算定。てんかん重積状態の患者、1回に限り740点。

検査項目		採取量(mL)	容器	保存	検査方法	保険点数	所要日数(日)	備考
（一般細菌）								
塗抹					グラム染色法	64	1	
培養	口腔・気道・呼吸器	適量	P·S	冷蔵	用手法	170	2～3	●淋菌・髄膜炎菌を目的とする場合は37℃又は室温で保存して下さい。●血液・髄液は37℃又は室温で保存して下さい。
	消化器	適量	Q	冷蔵		190	2～3	
	泌尿器・生殖器	適量	O·P	冷蔵		180	2～3	
	血液・穿刺液	血液 1~10mL	R·O	室温 冷蔵		220	3～10	
	その他	適量		冷蔵		170	2～3	
嫌気性培養					ガスパック法	122加算	2～3	●血液・髄液は37℃又は室温で保存して下さい。
感受性試験	1菌種				CLSI準拠	180	2～3	
	2菌種					230		
	3菌種以上					290		

● 判断料は微生物学的判断の150点となります。

薬剤感受性標準セット	グラム陽性球菌		グラム陰性桿菌		肺炎球菌	ヘモフィルス·ブランハメラ	嫌気性菌	淋菌
	ABPC	ST	ABPC	GM	PCG	ABPC	PCG	PCG
	PCG	LVFX	PIPC	AMK	AMPC	SBT/ABPC	SBT/ABPC	CTRX
	CEZ	IPM	SBT/ABPC	AZT	CTRX	CTRX	CMZ	TC
	CMZ	VCM	TAZ/PIPC	LVFX	CAM	CAM	CLDM	SPCM
	MINO		CEZ	CPFX	LVFX	ST	IPM	CPFX
	EM		CMZ	IPM	IPM	LVFX	MEPM	
	GM		CTRX	MEPM	MEPM	MEPM		カンピロバクター
	ABK		CAZ		VCM			EM
	CLDM		CFPM					CPFX
	FOM		MINO					

検査項目		採取量(mL)	容器	保存	検査方法	保険点数	所要日数(日)	備考
（抗酸菌）								
塗抹		適量	S	冷蔵	蛍光法(集菌法)	85	1～2	集菌法加算 塗抹50+集菌加算35=85点
培養		適量	S	冷蔵	２%小川変法	209	3～8週	
同定	結核菌群核酸検出	適量	S	冷蔵	核酸増幅検出法	410	3～4	
同定	ＭＡＣ核酸検出	適量	S	冷蔵	核酸増幅検出法	421	3～4	●MAC検査は他の検査により陰性であることが確認された場合にのみ算定されます。

※MAC=M.aviumとM.intracellulareを一括した名称

● 判断料は微生物学的検査判断料の１５０点となります。

● 抗酸菌遺伝子検査の留意点

1）血液混入検体、組織など材料によっては阻害物質により偽陰性になる場合があります。

2）胸水、腹水、髄液、関節液、血液の採取に当たっては、フィブリンの析出防止のため、必ずＥＤＴＡを用いて採取してください。
ヘパリンーＮａは使用しないでください。

3）塗抹検査で（－）または排菌数が微量な（＋）症例においては、核酸増幅検出感度限界により「陽性」と判定されない場合もあります。
臨床所見で結核菌群が疑われる場合は数回の検体採取による核酸検出検査をお勧めします。

4）検査結果において「陽性」は結核菌群或いはＭＡＣの存在を示唆しますが、「陰性」の場合必ずしも結核菌群あるいはＭＡＣの存在を否定するものではありません。
塗抹・培養など他の検査との併用により総合的に診断いただきますようお願いいたします。

● 抗酸菌同定検査算定の留意点

ＭＡＣ検査は他の検査により陰性であることが確認された場合のみ算定されます。

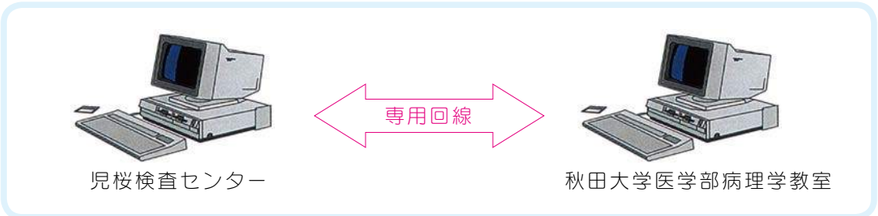
検査項目	採取量(mL)	容器	保存	検査方法	保険点数	所要日数(日)	採便容器
ノロウイルス遺伝子検査	拇指頭大糞便	α	冷蔵	RT-PCR法		1～3	ⓐ

検査項目	採取量(mL)	容器	保存	検査方法	保険点数	所要日数(日)	備考
病理組織顕微鏡検査		T	室温	ヘマトキシリン・エオジン染色	1臓器 860 2臓器1720 3臓器2580	3～10	組織採取後、直ちに10～20%ホルマリン液に入れ固定してください。 病理医による切り出しが必要な検体や脱脂・脱灰・特殊染色の必要な検体は、所要日数が7～14日程度になります。 ヘリコバクターピロリ判定：検査依頼時にお申込ください。 作製したブロックの返却・貸し出しはいたしません。未染色標本を作製いたします。

● 判断料は病理学的検査判断料の130点となります。

秋田大学パソロジーセンター事業

病理細胞診システムは秋田大学医学部病理学教室と専用回線で結ばれています。



●診断報告書･マクロ写真･切り出し図をA4サイズに統一しました。
依頼書も切り出し情報を記入して報告します。

●国際疾病分類腫瘍学(ICD－O－3)を記載しています。
がん登録の際にご利用ください。

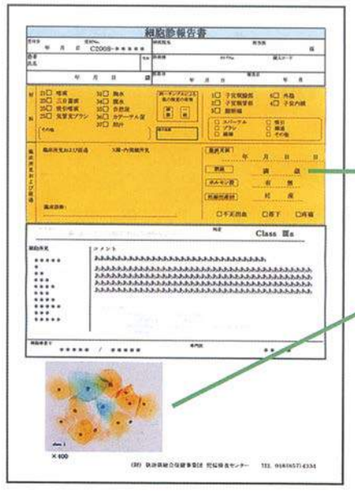
診断報告書

マクロ写真･切り出し図

依頼書

検査項目		採取量(mL)	容器	保存	検査方法	保険点数	所要日数(日)	備考
婦人科	子宮頸膣部 子宮頸管部 子宮内膜 膣断端 外陰部		U	室温	パパニコロウ染色	150	2~3	塗抹後直ちに固定液に入れてください。 (固定時間３０分以上)
その他	喀痰	適量	S	冷蔵	パパニコロウ染色 PAS染色 M－G染色	190	2~3	
	喀痰集細胞	適量	X	室温				蓋の裏に粘液溶解剤が塗抹されています。シールをはがしてから混和してください。
	自然尿・カテーテル尿	40mℓ	Y J	冷蔵				＊次ページ参照
	体腔液・関節液 胆汁ほか	適量	J S (Y)	冷蔵				採取量が多い場合は、容器ＳまたはＹをご利用ください。 ＊穿刺吸引細胞診は次ページ参照
	針穿刺吸引細胞診 (乳腺･甲状腺ほか)	適量	V W	室温				
			J S (Y)	冷蔵				

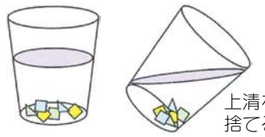
● 判断料は病理学的検査判断料の130点となります。
● 専門医の判定が必要な場合は、所要日数が3~7日程度になります。



●報告書がA4サイズの他にA5サイズも対応可能になりました。
●依頼書の材料･臨床診断を報告書に添付します。

●顕微鏡画像を添付･報告します。
顕微鏡画像につきましては、ご提出いただいた標本の有所見部分を撮影していますが、標本全体を反映しているわけではありませんのでご承知ください。

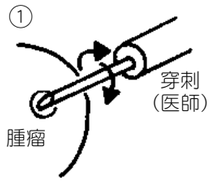
【尿細胞診提出方法】



ハルンカップ静置後（15分位)、40 ～ 50mL程度を残して捨て、よく混和してから尿検査用容器に移してください。

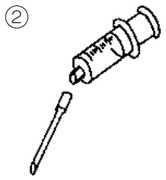
【穿刺吸引細胞診検体の処理法】

①



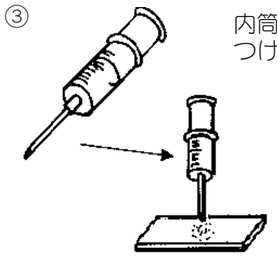
目的部位に穿刺後円筒を用いて陰圧状態を７～10秒間保持しこの間、針先で組織をくり抜くように針を半回転させる動作を数回行う。
吸引する力を徐々に緩めて円筒を戻し針を除去する。

②



注射筒を受け取り、針を外して注射器の円筒を引く。

③



内筒を引いた注射器に再度針をつけ、内容物を吹き出す。

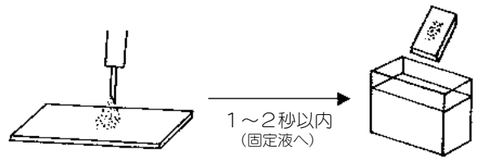
注意：
ガラス面に対して針を直角にし１～２㎝上から吹き出す。
※あまり強く吹き出すと細胞が変性します。

直ちに固定液へ

塗抹法

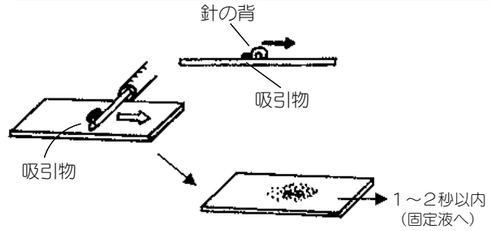
多くは微量の吸引物が針内に得られるのみです。無理に塗抹面を広げると乾燥しますので、吹き出しのみをお勧めします。

吹き出しのみ（微量の霧状検体）



吸引物を吹き付け、そのまま固定する。

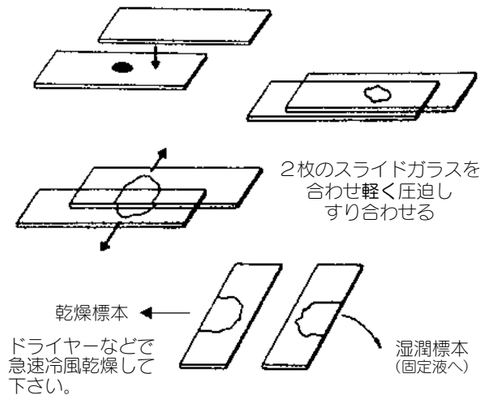
吹き出し＋針伸展（多めに吸引された場合）



吹き出し後、吸引物を針の背で伸ばし、直ちに固定液へ

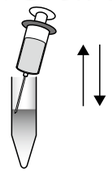
擦り合わせ（組織片・粘液性吸引物の場合のみ）

注意：
※擦り合わせ法は、細胞の乾燥や物理的な力によるアーチファクト（膨化・散在傾向）が生じやすいため、通常は行わないでください。



④標本作製
●湿潤標本：塗抹法（右図参照）
●乾燥標本：②③の操作を繰り返し乾燥標本を作製する。

塗抹後 穿刺針を洗浄



穿刺針が付いたまま保存液を吸い上げ吐き出す

○乾燥標本を優先する疾患
リンパ節炎･リンパ腫･血液疾患など造血器系病変
リンパ節腫脹の原因が不明の場合
○湿潤標本を優先する場合
乳腺・甲状腺・その他
転移が疑われるリンパ節

検査項目	検査方法	参考文献
生化学的検査		
(蛋白膠質反応)		
総蛋白量　TP	ビュウレット法	金井泉，他：臨床検査法提要(第31版)．475-480，金原出版1998
アルブミン　ALB	BCP改良法	小野美由紀ら:臨床化学，37，Supp．1:133(2008)
(含窒素成分)		
尿素窒素　BUN	ウレアーゼ・GLDH・UV法	折田義正，他：日本臨床(増刊)第５版(1)：546-548，1999
尿酸　UA	ウリカーゼPOD法	影山信雄：臨床検査16(８)：891-895，1972
クレアチニン　CRE	酵素法	林康之，他：血清クレアチニン,臨床検査診断〈第２版〉．165-173，中外医学社，1987
(糖類)		
血糖　GLU	ヘキソキナーゼ法	林康之，他：血糖，臨床検査診断〈第２版〉．181-190，中外医学社，1987
(電解質)		
ナトリウム　Na	イオン電極法	堀尾勝，折田義正：臨床検査，32：178，1988
クロール　CL	イオン電極法	北村元仕，他：実践臨床化学．136　1982
カリウム　K	イオン電極法	水越洋：臨床検査．34(11)：1287-1292，1990
カルシウム　Ca	MXB法	岡崎亮，他：電解質と微量元素の臨床検査ガイド．臨床検査増刊号(増刊号) 34(11)：1301-1307，1990
マグネシウム　Mg	酵素法	玄番昭夫：Med．Technol．14：49，1986
(無機質)		
無機リン　IP	酵素法	林康之，他：リン(P)，臨床検査診断〈第２版〉．276-280，中外医学社，1987
血清鉄　Fe	Nitroso-PSAP法	八幡義人：鉄(Fe)．臨床検査(増刊号)，34(11)：1311-1321，1990
総鉄結合能　TIBC	Nitroso-PSAP法	荒明洋：臨床検査機器・試薬，６(2)：359-366，1983
(脂質)		
総コレステロール　T-CH	COD・POD法	前田朝美，他：日本臨床(増刊)第５版(2)：13-15，1999
LDL-コレステロール　LDL-CH	酵素法	梶山梧朗：動脈硬化，vol.25，1997
HDL-コレステロール　HDL-CH	酵素法	笈田耕治：日本臨床(増刷)第５版(2)：16-19，1999
中性脂肪　TG	酵素法	岡部紘明，他：日本臨床(増刊)第５版(2)．28-30，1999

検査項目	検査方法	参考文献
(酵素)		
LD（LDH）	IFCC法	Schumann et al:Clin chem Lab Med 49(9)：1439～1446，2011.
GGT（γ-GTP）	JSCC法	日本臨床化学会　酵素専門委員会：臨床化学，24，106-120，1995 日本臨床化学会　酵素専門委員会：臨床化学，23，335-340，1994
AST（GOT）	JSCC法	日本臨床化学会：臨床化学18，(4)：226-249，1989
ALT（GPT）	JSCC法	日本臨床化学会：臨床化学18，(4)：250-262，1989
CK	JSCC法	川村憲弥，奥住裕二，森三樹雄：医学検査，44(9)，1416-1421，1995
コリンエステラーゼ　ChE	JSCC法	日本臨床化学会：臨床化学32，162-179，2003
アルカリ性フォスファターゼ　ALP	IFCC法	Schumann et al:Clin chem Lab Med 49(9)：1439～1446，2011.
アミラーゼ　AMY（血清･尿）	JSCC法	日本臨床化学会：臨床化学，34，350-361，2005
ロイシンアミノペプチターゼ　LAP	L-ロイシル・P-NA法	金井泉，金井正光：「臨床検査法提要」第31版，657-660，金原出版，1998
(生体色素)		
総ビリルビン　T-BIL	バナジン酸酸化法	川崎寛中：日本臨床（増刊）第５版(2)，323-326，日本臨床社，1999
抱合型ビリルビン　D-BIL	バナジン酸酸化法	川崎寛中：日本臨床（増刊）第５版(2)，323-326，日本臨床社，1999
(血中薬物検査)		
ジゴキシン	EMIT	TDM実例集編集委員会編：
テオフィリン	EMIT	臨床に役立つTDM実例集第３集
フェニトイン	EMIT	TDM活用ガイド(薬物血中濃度管理の手引き)
フェノバルビタール	EMIT	
カルバマゼピン	EMIT	
バルプロ酸	EMIT	
リチウム	比色法	
(その他)		
ヒト脳性Na利尿ペプチド(BNP)	CLIA	日本臨床第６版(4)：577-580，2005

検査項目	検査方法	参考文献
（その他）		
糖負荷試験　OGTT	ヘキソキナーゼ法	前川聡：日本臨床（増刊）第５版(1)．592-594，日本臨床社，1999
クレアチニン・クリアランス　CCR	酵素法	金井泉，他：臨床検査法提要（第31版）．1476-1477，金原出版，1998
24時間クレアチニン・クリアランス　24-CCR	酵素法	金井泉，他：臨床検査法提要（第31版）．1478，金原出版，1998
尿酸クリアランス　C-UA	酵素法	中山瑞穂，御巫清允：尿酸クリアランスの測定法と臨床的意義．臨床検査，28(5)：603-604，1984
（その他）		
アミラーゼクレアチニンクリアランス比　ACCR	JSCC法・酵素法	尾形稔，河合忠：検査診断学．69，南山堂，1983
妊娠反応	イムノクロマト法	金井泉，他：臨床検査法提要(第29版)．662-666，1983
血液学検査 （血液一般検査）		
血色素量　Hb	SLSヘモグロビン法	米山彰子：日本臨床第６版②．553-557，2004
赤血球数　RBC	抵抗検出法	米山彰子：日本臨床第６版②．553-557，2004
ヘマトクリット値　Ht	パルス検出法	米山彰子：日本臨床第６版②．553-557，2004
網赤血球数　Ret	フローサイトメトリー法	中本博幸，他：日本臨床第６版②．558-560，2004
血小板数　PLT	パルス検出法	米山彰子：日本臨床第６版②．553-557，2004
白血球数　WBC	抵抗検出法	米山彰子：日本臨床第６版②．553-557，2004
（血液形態機能検査）		
血液像		金井泉，他：臨床検査法提要(第31版)．286-310，1998
（出血･凝固検査）		
プロトロンビン時間　PT	Quick一段法	島津千里，他：日本臨床第６版②．590-593，2004
活性化部分トロンボプラスチン時間　APTT	エラジン酸活性化法	島津千里，他：日本臨床第６版②．590-593，2004
フィブリノーゲン定量　Fbg	トロンビン法	日裏久英，他：日本臨床第６版②．597-599，2004
（糖類）		
グリコヘモグロビン　HbA1c	酵素法	糖尿病37(11)，855-864，1994
免疫血清学的検査 （血液型関連検査）		
ABO血液型	カラム凝集法	日本臨床衛生検査技師会：輸血・移植検査技術教本

検査項目	検査方法	参考文献
免疫血清学的検査 （血液型関連検査）		
RhD血液型	カラム凝集法	日本臨床衛生検査技師会：輸血・移植検査技術教本
直接クームス試験（直接抗グロブリン試験）	試験管法	日本臨床衛生検査技師会：輸血・移植検査技術教本
間接クームス試験（間接抗グロブリン試験）	カラム凝集法	日本臨床衛生検査技師会：輸血・移植検査技術教本
（感染症血清反応検査）		
梅毒RPR法（定性・定量）	ラテックス凝集法	大里和久，日本性感染症学会誌，13，124-130，2002
梅毒TPLA（定性・定量）	ラテックス凝集法	大里和久，日本性感染症学会誌，13，124-130，2002
抗ストレプトリジンO価　ASO	ラテックス凝集法	長田富香：Med technol，８：293-296，1980
マイコプラズマ抗体	粒子凝集反応（PA）	福島和子，他：日本臨床（増刊）第6版(3)，227-230，2005
H.ピロリIgG抗体	ラテックス凝集免疫比濁法	H．Pylori感染の診断と治療のガイドライン2009改訂版Ⅲ診断
（肝炎ウイルス検査）		
HBs抗原	簡易法	金井泉，他：臨床検査法提要（第31版）．1437-1440，1998
HBs抗体	簡易法	金井泉，他：臨床検査法提要（第31版）．1437-1440，1998
HBs抗原精密測定	CLIA	アポットジャパン社内文献 日本臨床：増刊号下巻，1995
HBs抗体精密測定	CLIA	
HBe抗原精密測定	CLIA	
HBe抗体精密測定	CLIA	
HBc抗体精密測定	CLIA	
HCV抗体精密測定	CLIA	
（自己抗体検査）		
RF（リウマトイド因子測定）	ラテックス比濁法	日本臨床，（増刊）第６版（３）．444-448，2005
寒冷凝集反応　CHA	赤血球凝集反応	田野崎栄，他：日本臨床(増刊)第6版(3)．137-139，2005
（血漿蛋白免疫学的検査）		
CRP（定量）	ラテックス凝集法	大谷英樹：日本臨床（増刊）第５版(1)．197-200，1999
CRP	ラテックス凝集法	桜林郁之介：臨床病理34(8)，1986
免疫グロブリン（IgG，IgA，IgM）	免疫比濁法	日本臨床（増刊・下）第４版(1)．3-13，1995
（血漿蛋白免疫学的検査）		
血清補体価（CH50）	Mayer変法	日本臨床第６版(4)：47-51，2005
C3	免疫比濁法	日本臨床第６版(4)：63-66，2005
C4	免疫比濁法	日本臨床第６版(4)：84-87，2005

検査項目	検査方法	参考文献
（甲状腺機能検査）		
甲状腺刺激ホルモン（TSH）	CLIA	日本臨床第６版(4)：216-219，2005
遊離サイロキシン（FT_4）	CLIA	日本臨床第６版(4)：253-257，2005
遊離トリヨードサイロニン(FT_3)	CLIA	日本臨床第６版(4)：258-262，2005
（腫瘍関連検査）		
CEA	CLIA	日本臨床（増刊）第６版(1)：632-634，2005
AFP	CLIA	日本臨床（増刊）第６版(1)：625-628，2005
CA19-9	CLIA	日本臨床（増刊）第６版(1)：642-644，2005
CA125	CLIA	日本臨床（増刊）第６版(1)：637-641，2005
PSA-T	CLIA	日本臨床（増刊）第６版(1)：694-697，2005
フリーPSA/トータルPSA比	CLIA	日本臨床（増刊）第６版(1)：694-697，2005
尿・糞便検査（尿一般検査）		
蛋白定量	ピロガロールレッド法	河内秀明，他：日本臨床(増刊)第7版(1)，93-96，2009
尿中マイクロアルブミン	免疫比濁法	河西浩一，石田俊彦，他：臨床病理金原出版vol.42：454-459，1995 尿中微量蛋白質の測定と糖尿病腎症
糖定量	ヘキソキナーゼ法	後藤由夫：日本臨床（増刊）第５版(1)，89-92，日本臨床社，1999
VMA反応	佐藤らの方法	金井泉，他：臨床検査法提要（第31版），175-176，1998
NAG	MPT基質法	菅野和久，他：NAG測定試薬の検討，JJMT，vol.40：1539-1544，1991
尿沈渣	染色法	日臨技標準化委員：尿沈渣検査法，日本臨床衛生検査技師会，2010
（糞便検査）		
糞便中ヒトヘモグロビン定性	ラテックス凝集法	河内秀明，他：日本臨床(増刊)第7版(1)，205-208，2009
糞便中ヒトヘモグロビン定量	ラテックス凝集法	河内秀明，他：日本臨床(増刊)第7版(1)，205-208，2009

検査項目	検査方法	参考文献
（糞便検査）		
寄生虫卵		
塗抹	セロハン厚層塗抹法	石崎達：寄生虫の検査と診断法，医寄生学：166-212，1974
ぎょう虫卵	セロテープ法	鈴木了司：寄生虫学図鑑，4-89，1974
ロタウイルス抗原	イムノクロマト法	河内秀明，他：日本臨床(増刊)第7版(1)，359-362，2010
アデノウイルス抗原	イムノクロマト法	河内秀明，他：日本臨床(増刊)第7版(1)，328-331，2010
クロストリジオイデス・ディフィシル	イムノクロマト法	臨床検査（第64巻 第3号），213-249，2020
微生物学的検査(一般細菌)		
塗抹	グラム染色法	臨床微生物検査ハンドブック　第5版
培養（同定）		臨床微生物検査ハンドブック　第5版
感受性試験	CLSI準拠	臨床微生物検査ハンドブック　第5版
（抗酸菌）		
塗株	蛍光法	抗酸菌検査ガイド2020
培養	2%小川変法	抗酸菌検査ガイド2020
結核菌群核酸検出	核酸増幅法	抗酸菌検査ガイド2020
MAC(マイコバクテリウム アビウム・イントラセルラー)核酸検出	核酸増幅法	抗酸菌検査ガイド2020
細胞診検査		
婦人科材料 その他		矢谷隆一，他：細胞診を学ぶ人のために医学書院，1990病理秘術マニュアル6，細胞診とその技術，日本病理学会編　Medical Technology vol.24 No.1(1996．1)
病理組織検査		
病理組織顕微鏡検査		病理技術マニュアル63，病理組織標本作製法，日本病理学会編

AIP	automated immunoprecipitation reactions	自動免疫沈降反応
CCAT	conglutinating complement absorption test	不完全抗体による補体吸着試験
C-ELISA	complement ELISA	補体免疫吸着測定法
CEP	countercurrent electrophoresis test	対向流電気泳動法
CF	complement fixation test	補体結合反応
CHA (T)	cold hemagglutination test	赤血球寒冷凝集（反応）
CIE	crossed immunoelectrophoresis	二次交差免疫電気泳動法
CIE,CIEP	counter immunoelectrophoresis	免疫電気向流法
CLEIA	chemiluminescent enzyme immunoassay	化学発光酵素免疫測定法
CLIA	chemiluminescent immunoassay	化学発光免疫測定法
CPBA	competitive protein binding analysis	競合性蛋白結合分析法
ECLIA	electrochemiluminescence immunoassay	電気化学発光免疫測定法
EIA	enzyme immunoassay	酵素免疫測定法
ELISA	enzyme-linked immunosorbent assay	酵素免疫吸着測定法
EMIT	enzyme multiplied immunoassay technique	多元酵素免疫測定法
ES	electrosyneresis methode	向流電気泳動法
EV-FIA	evanescent wave fluoro immuno assay	エバネセント波蛍光免疫測定法
FA,FAT	fluorescent antibody technique	蛍光抗体法
FANA	fluorescent antinuclear antibody (test)	蛍光抗核抗体　（試験）
FCM	flow cytometry	フローサイトメトリー
FEIA	fluoroenzyme immuno assay	蛍光酵素免疫測定法
FIA	fluorescent immunoassay	蛍光免疫測定法
FISH	fluorescence in situ ハイブリダイゼーション	蛍光in situ ハイブリダイゼーション
FLA-ABS	fluorescent leprosy antibody adsorption	蛍光らい菌抗体吸着試験
FPA	fluorescence polarization assay	蛍光偏光解消法
FPIA	fluorescence polarization immunoassay	蛍光偏光免疫測定法
FTA	fluorescent treponemal antibody (test)	梅毒トレポネーマ蛍光抗体（試験）
FTA-ABS	fluorescent treponemal antibody absorption (test)	梅毒トレポネーマ蛍光抗体吸収（試験）
GC	gas chromatography	ガスクロマトグラフィー
GCMS	gas chromatography-mass spectrometry	ガスクロマトグラフィー・マススペクトロメトリー
GLC	gas liquid chromatography	ガス液体クロマトグラフィー
HA	hamagglutination	赤血球凝集反応
HAIR	hemagglutination inhibition reaction	赤血球凝集阻止反応
HI	hemagglutination inhibition test	赤血球凝集抑制反応
HPLC	high performance liquid chromatograph	高速液体クロマトグラフィー
IAHA	immune sdherence hemagglutination	免疫粘着赤血球凝集反応
ID,IDTP	immunodiffusion test of particle	免疫拡散法
IDIF (IF)	indirect immunofluorescence	間接免疫蛍光法
IE	immunoelectrophoresis test	免疫電気泳動法
IFA	indirect fluorescent anitibodey (technique)	間接蛍光抗体（法）
IFT	immunofluorecent technique	免疫蛍光法
IP	immuno peroxidase reaction	免疫ペルオキシダーゼ反応
IPIT	immunoprecipitation inhibitory technique	沈降阻止免疫測定法
IR	infrared absorption spectrometry	赤外吸収スペクトロメトリー
IRA,IPMA	immunoradiometric assay	免疫放射定量法
LAT	latex fixation test	ラテックス凝集反応
LIA	laser immunoassay	レーザー免疫測定法
LN	laser nephelometry	レーザーネフェロメトリー法
LPIA	latex photometric immunoassay	ラテックス近赤外免疫比濁法
MO	micro ouchterlony double immunodiffusion methode	ミクロオクタロニー法
NT	neutralization test	中和反応
PA	particle agglutination	ゼラチン粒子凝集法
PAMIA	particle agglutination mediated immunoassay	微粒子計数免疫凝集測定法
PCE	paper chromatoelectrophoresis	濾紙電気泳動法
PCG	paper chromatography	濾紙クロマトグラフィー
PCIA	particle counting immuno assay	微粒子計数免疫凝集測定法
PCR	polymerase chain reaction	ポリメラーゼチェインリアクション
PHA	passive hemagglutination	受身赤血球凝集反応
RA	radio assay	ラジオアッセイ
RAST	radioallergosorbent test	放射性アレルギー吸着試験
REA	radio enzymatic assay	酵素アイソトープ法
RIA	radio immunoassay	放射性免疫測定法
RID	radio immunodiffusion	放射性免疫拡散法
RIE (P)	radioimmunoelectrophoresis	放射性免疫電気泳動
RIP	radioimmunoprecipitation	放射性免疫沈降反応
RIST	radioimmunosorbent test	放射性免疫吸着試験
RPHA	reversed passive hemmagglutination	逆受身赤血球凝集反応
RPLA	reversed passive latex agglutination	逆受身ラテックス凝集反応
RRA	radio receptor assay	放射性受容体免疫法
RT-PCR	reverse transcripatase-PCR	リバーストランスクリプターゼ-PCR
SBPA	sandwich binding protein assay	結合蛋白サンドイッチ測定法
SDA	substrate deficient assay	欠乏血漿を用いる凝固時間法
SIA	spin immunoassay	スピンイムノアッセイ
SLAT	slide latex agglutination test	スライドラテックス凝集試験
SLFIA	substrate labeled fluorescence immunoassay	酵素基質標識蛍光免疫測定法
SLIA	substrate-labeled immunoassay	酵素基質標識免疫測定法
SQUID	superconducting quantum interference devices	超伝導量子干渉計
SRCF	single radial complement fixation	一元放射補体結合反応
SRID	single radial immuno diffusion	一元放射免疫拡散法
TIA	turbimetric immunoassay	比濁免疫測定法
TLC	thin layer chromatography	薄層クロマトグラフィー
TR-FIA	time resolved fluorescene immunoassay	時間分解蛍光免疫測定法
UV	ultraviolet absorption spectophotometry	紫外部吸光光度分析
W.B.	Western Blot法	ウエスタン・ブロット法

当事業団では、
○免疫・生化学などの残存血清は、凍結にて4週間保存しております。
○血液学検査の全血検体は、冷蔵にて3日間保存しております。
○上記以外の保存条件・期間をご依頼の場合はご連絡ください。

下記の表は、検体の保存条件による一般的な検査データの安定性を示したものであります。（当事業団の保存期間ではありません。）

検査項目	保存可能期間	検査項目	保存可能期間
総蛋白（TP）	凍結1年	HCV抗体	凍結1年
蛋白分画	凍結約1ヶ月	リウマトイド因子	凍結約4ヶ月
IgG	凍結1ヶ月、冷蔵2週間	CRP	凍結約4ヶ月
IgA	凍結1ヶ月、冷蔵2週間	赤血球数（RBC）	冷蔵1日
IgM	凍結1ヶ月、冷蔵2週間	白血球数（WBC）	冷蔵1日
尿素窒素	凍結6ヶ月	ヘマトクリット（Ht）	冷蔵1日
クレアチニン	凍結6ヶ月		
尿酸（UA）	凍結約6ヶ月		
ナトリウム（血清）	凍結1年、冷蔵1ヶ月		
クロール（血清）	凍結1年、冷蔵1ヶ月		
カリウム（血清）	凍結1年、冷蔵1ヶ月		
カルシウム（血清）	凍結約1ヶ月		
無機リン（血清）	凍結約1ヶ月		
マグネシウム（血清）	凍結約1年、冷蔵2週間		
血清鉄（Fe）	凍結6ヶ月、冷蔵2週間		
総鉄結合能（TIBC）	凍結6ヶ月		
総コレステロール	凍結約1年		
LDL-CH	凍結約1ヶ月		
HDL-CH	凍結約1ヶ月		
中性脂肪	凍結約1ヶ月		
リン脂質（PLP）	凍結約1ヶ月		
エステル型コレステロール	凍結約1年		
ビリルビン	凍結約1ヶ月		
LD（LDH）	凍結2週間		
GGT（γ-GTP）	凍結6ヶ月、冷蔵1ヶ月		
AST（GOT）	凍結4ヶ月		
ALT（GPT）	凍結1ヶ月		
CK	凍結1ヶ月		
コリンエステラーゼ	凍結6ヶ月、冷蔵2週間		
ALP	凍結6ヶ月		
AMY	凍結1年、冷蔵1ヶ月		
LAP	凍結3ヶ月		
血糖	冷蔵7日		
グリコヘモグロビン(HbA_{1C})	冷蔵7日		
RPR法	凍結1年		
TPLA	凍結1年		
ASO価	凍結約4ヶ月		
寒冷凝集反応（CHA）	凍結1年、冷蔵1ヶ月		
HBs抗原	凍結1年、冷蔵1ヶ月		
HBs抗体	凍結1年、冷蔵1ヶ月		

当事業団細胞診部門は、日本臨床細胞学会の施設認定を受けております。

日本臨床細胞学会施設認定証

施設名　公益財団法人秋田県総合保健事業団児桜検査センター

貴施設を日本臨床細胞学会施設認定規定により施設認定第 0160 号で認定いたします。

認定期間：自　2019 年 4 月 1 日
　　至　2024 年 3 月 31 日

2019 年 4 月 1 日

公益社団法人日本臨床細胞学会
理事長　青木　大輔

【日本臨床細胞学会施設認定制度について】

日本臨床細胞学会施設認定制度は、（１）細胞診断学が、腫瘍性疾患はじめ疾病の的確な早期診断と経過観察に有用な手段として、国民の健康管理と増進に貢献することであることの認識を広める、および（２）細胞診断学が、医療施設における良質の診療機能の実現に寄与するものであることについて、施設管理者及び医療従事者の理解を深め、診断精度の向上に必要な条件設備を促すことを目的とする。

認定の基準

１）日本臨床細胞学会の認定する常勤またはそれに準ずる細胞診専門医および常勤の細胞検査士が連携した細胞診断業務を遂行していること。

２）細胞診断件数が年間2000件以上であり、しかも細胞診標本を自施設で作製していること。

３）日本臨床細胞学会が定める精度管理を実施していること。